



ESC ポータルを使用した VNF の展開

- [ESC ポータルを使用した仮想ネットワーク機能の展開 \(OpenStack のみ\) \(1 ページ\)](#)
- [ESC ポータルを使用した VMware vCenter での VNF の展開 \(2 ページ\)](#)
- [展開テンプレートを使用した仮想ネットワーク機能の展開 \(5 ページ\)](#)

ESC ポータルを使用した仮想ネットワーク機能の展開 (OpenStack のみ)

ESC ポータルを使用して、データモデル XML ファイルを展開することで、単一の VNF または複数の VNF をまとめて展開できます。ESC ポータルを使用して、次のいずれかの方法で単一の VNF または複数の VNF をまとめて展開できます。

手順

ファイルを使用した展開：既存のデータモデルファイルをアップロードできます。

次の項では、ESC ポータルを使用して VNF を展開する方法について説明します。

ファイルを使用した展開 (展開データモデル)

既存の展開データモデルを使用して VNF を展開します。展開データモデルは、VNF の数およびその他の仕様が事前設定されています。展開データモデルを検索してアップロードするか、既存の展開データモデルをドラッグアンドドロップできます。ドラッグアンドドロップ機能を使用すると、既存の展開データモデルを取得し、ファイルをドラッグして展開テーブルにドロップすることで再利用できます。



(注) XML ファイルのみ受け入れられます。

手順

ステップ 1 [展開 (Deployments)] を選択します。

ステップ 2 ファイルを [展開 (Deployments)] テーブルにドラッグアンドドロップするか、テーブルツールバーの [XML のアップロード (Upload XML)] をクリックして、ファイルを参照して選択します。

(注) ドラッグアンドドロップ機能は、現時点では REST コールを実行し、NETCONF コールは実行しません。

ESC ポータルを使用した VMware vCenter での VNF の展開

ESC ポータルでは、単一の VNF または複数の VNF を一緒に展開できます。既存の展開データモデルがポータルを介してアップロードされるか、新しい展開データモデルが作成されます。新しい展開データモデルは、ESC ポータルの該当するすべてのフィールドに入力することによって作成されます。ESC では、ポータルから展開データモデルをエクスポートすることもできます。次のセクションでは、ESC ポータルを使用して VNF を展開する複数の方法について説明します。

次の項では、ESC ポータルを使用して VNF を展開する方法について説明します。

手順

ステップ 1 ファイルを使用して展開します。

ステップ 2 フォームを使用して展開します。

ファイルを使用した展開 (展開データモデル)

既存の展開データモデルを使用して VNF を展開します。展開データモデルは、VNF の数およびその他の仕様が事前設定されています。展開データモデルを検索してアップロードするか、既存の展開データモデルをドラッグアンドドロップできます。ドラッグアンドドロップ機能を使用すると、既存の展開データモデルを取得し、ファイルをドラッグして展開テーブルにドロップすることで再利用できます。



(注) XML ファイルのみ受け入れられます。

手順

ステップ 1 [展開 (Deployments)] を選択します。

ステップ 2 ファイルを [展開 (Deployments)] テーブルにドラッグアンドドロップするか、テーブルツールバーの [XML のアップロード (Upload XML)] をクリックして、ファイルを参照して選択します。

(注) ドラッグアンドドロップ機能は、現時点では REST コールを実行し、NETCONF コールは実行しません。

フォームを使用した展開

新しい展開テンプレートを作成するには、次の手順を実行します。



(注) [テンプレートのエクスポート (Export Template)] をクリックして、展開データモデルをエクスポートします。

手順

ステップ 1 [展開 (Deployments)] を選択します。

ステップ 2 [+] をクリックして、フォームを使用して展開します。

ステップ 3 展開名を入力します。

ステップ 4 [データセンター (Datacenter)] ドロップダウンリストから、VNF を展開するデータセンターを選択します。

仮想データセンターの詳細については、「VMware vCenter での仮想ネットワーク機能の展開」を参照してください。

ステップ 5 [全般 (General)] タブで、フィールドに適切な値を入力します。

a) [配置 (Placement)] フィールドで、[クラスタ (Cluster)] または [ホスト (Host)] オプションボタンを選択します。

- [クラスタ (Cluster)] : 同じクラスタで VNF を展開するクラスタの名前を選択します。
- [ホスト (Host)] : 同じホストで VNF を展開するホストを選択します。
- [データストア (Datastore)] : 選択したクラスタのデータストアを選択します。
- [イメージ (Image)] : イメージを選択します。

- ステップ 6** スマートライセンスを有効にするには、[スマートライセンスの有効化 (Enable Smart Licensing)] をクリックします。
- ステップ 7** [グループ内ルールの有効化 (Enable Intragroup Rules)] をクリックして、グループ内ルールを有効にします。
- a) [タイプ (Type)] ドロップダウンリストから、[アフィニティ (Affinity)] または [アンチアフィニティ (Anti-Affinity)] を選択して、アフィニティルールまたはアンチアフィニティルールを有効にします。
- グループ内アフィニティルールの詳細については、[アフィニティルールとアンチアフィニティルール](#)を参照してください。
- ステップ 8** (オプション) [VNFグループ内ルールの追加 (Add VNF Intergroup Rule)] タブをクリックして、アフィニティルールまたはアンチアフィニティルールを適用する VNF を選択します。
- グループ内アフィニティルールの詳細については、[アフィニティルールとアンチアフィニティルール](#)を参照してください。
- ステップ 9** 障害発生時に ESC が VNF を修復するために使用するパラメータを指定するには、[リカバリ (Recovery)] タブをクリックします。
- リカバリまたは修復の詳細については、[仮想ネットワーク機能の修復](#)を参照してください。
- ステップ 10** インターフェイスの数と各インターフェイスのプロパティを指定するには、[インターフェイス (Interfaces)] タブをクリックします。ここで指定されたインターフェイスの順序は、VM のインターフェイスの順序とは一致しません。
- a) [インターフェイスの追加 (Add Interfaces)] をクリックしてインターフェイスを追加します。
- ステップ 11** インスタンス化する必要がある特定のタイプの VM のインスタンス数を指定し、柔軟にスケールインおよびスケールアウトするには、[スケーリング (Scaling)] タブをクリックします。
- a) [静的IPプールの追加 (Add Static IP Pool)] をクリックして、静的IPプールを追加します。
- ステップ 12** ESC 内のモニタモジュールの設定に使用するモニタリングルールを指定するには、[モニタリング (Monitoring)] タブをクリックします。
- モニタリングの詳細については、[仮想ネットワーク機能のモニタリング](#)を参照してください。
- ステップ 13** [設定データ (Config Data)] タブで、フィールドに適切な値を入力します。
- ステップ 14** (オプション) [OVF設定 (OVF Settings)] タブで、フィールドに適切な値を入力します。
- a) [OVFプロパティの追加 (Add OVF Property)] をクリックして、OVF プロパティのリストを追加します。
-

展開テンプレートを使用した仮想ネットワーク機能の展開

ESC ポータルから事前設定済み展開テンプレートをアップロードすることで、VNF を展開できるようになりました。

1. [システム (System)] > [展開テンプレート (Deployment Templates)] に移動します。
2. [XMLのアップロード (Upload XML)] をクリックします。
ドラッグアンドドロップするか、事前設定済み展開テンプレート (dep.xml) を選択して [確認 (Confirm)] をクリックします。展開テンプレートがテーブルに表示されます。
3. アップロードした展開テンプレートを選択し、[テンプレートから展開 (Deploy from Template)] をクリックします。
4. 展開名とテナント名は、アップロードしたテンプレートから追加されます。必要に応じてフィールドを変更するか、[作成 (Create)] をクリックしてテンプレートを作成します。
5. 正常終了のメッセージが画面に表示されます。[OK] をクリックします。

新しい展開テンプレートが [展開 (Deployments)] ビューに表示されます。

事前設定済みテンプレート

既存の dep.xml に変更を加えて、事前設定済みテンプレートとして使用できます。ユーザは、データモデルに次の変更を加える必要があります。

- `esc_datamodel` の代わりに `esc_datamodel_template` タグを使用します。
- `esc_datamodel_template name` プロパティは一意であり、テンプレートを識別するために指定する必要があります。
- `param_key` は、カスタマイズ可能な値を識別するためにポータルで使用されます。必須フィールドです。このキーは一意ですが、テンプレートに複数回表示されることがあります。
- `prompt` に、ユーザが追加する必要がある入力値が表示されます。必須フィールドです。ドキュメント内の別の場所で指定された同じ `param_key` に対する `prompt` が異なる場合は、最初の `prompt` が使用されます。
- `core` はデフォルト値で、空白のままにできます。
- `required` は、ユーザがこの値を入力する必要があるかどうかを指定します。これはオプションのフィールドです。デフォルト値は `true` です。
- `range` は、数値フィールドを検証します。これはオプションのフィールドです。

事前設定済みテンプレートの例：

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<esc_datamodel_template xmlns="http://www.cisco.com/esc/esc" name="VPC Template 1">
  <tenants>
    <tenant>
      <name param_key="tenant_name" prompt="Tenant Name">core</name>
      <managed_resource>>false</managed_resource>
      <deployments>
        <deployment>
          <name param_key="dep_name" prompt="Deployment
Name">vnfd3-deployment-1.0.0-1</name>
          <policies>
            <placement>
              <target_vm_group_ref>c2</target_vm_group_ref>
              <type>anti_affinity</type>
              <enforcement>strict</enforcement>
              <vm_group_ref>c1</vm_group_ref>
            </placement>
          </policies>
        </deployment>
      </deployments>
    </tenant>
  </tenants>
</esc_datamodel_template>
```

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。